

事例から学ぶ

介護事業者の事故対応

ルール違反事故への対応はルール再徹底では不十分

-なぜルールに違反したのか？-

■忘れ物を取りに戻ったら溺れていた

“デイサービスさくら”は浴室も狭く小さな一人用の浴槽で、1対1で入浴介助を行っています。ある時スタッフが、軽度認知症で左半身麻痺のRさん(83歳・男性・要介護3)の入浴介助を行いました。Rさんの身体を洗った後、スタッフが介助してRさんが浴槽に入った時、スタッフはT字カミソリを忘れてきたことに気付きました。Rさんは電気カミソリが嫌いで、毎回T字カミソリを持参するのです。スタッフは浴槽のRさんに声をかけて脱衣所にカミソリを取りに行きすぐに戻りました。ところが、戻ってみるとRさんが浴槽で溺れています。スタッフはすぐにRさんを浴槽から引き上げ、大声で他のスタッフを呼びました。Rさんは意識が混濁しており、救急車で病院に搬送しましたが、幸い命に別状はありませんでした。事故後のスタッフ会議で再発防止策について話し合い、所長が“入浴介助中は絶対利用者から離れてはいけない”というルールを再徹底」と話し、職員全員が改めて安全な介護のルールを確認しました。

ルール違反の原因を改善することも再発防止策

■なぜルールに違反したのかその原因は何か

ルール違反が原因で事故が発生すると、再発防止策として「再度ルールを確認しルールを順守する」という対策で決着するケースが多くみられます。もちろん、介護の安全ルールを遵守することは重要で、プロの介護職員として守るべきルールは徹底しなければなりません。しかし、現場ではちょっとしたルール違反が原因で、事故が起こることはさほど珍しくありません。なぜ、現場の介護職員はルールに違反して事故を起こすのでしょうか？



ルール違反で事故が起きた時は、ルール遵守の再徹底と同時にやるべき重要な対策があります。それは、「ルール違反の原因分析と原因除去の対策」を講じることです。分かりやすく言えば「なぜルールに違反しなければならなかったのか」ルール違反の原因を探って、原因が起きないように対策を講じること」です。

■少しくらいなら大丈夫だろう

人はルールがあることが分かっているにも、「少しくらいなら大丈夫だろう」とルールを軽視することがあります。

「時間が迫っている」「利用者のためだから」など、ルールに違反する大義名分があると、ルール違反を起こしやすくなります。ルールに違反した原因が何かを把握して、この原因が発生しないような手順や仕組みを考えることが重要なのです。

本事例ではなぜスタッフはルールに違反して入浴介助中に利用者のそばを離れたのでしょうか？「T字カミソリを脱衣所に忘れたこと」がルール違反の直接の原因です。では、なぜT字カミソリを忘れてしまったのでしょうか？入浴介助に使用する用具を点検する手順・仕組みが無いからです。

利用者の中には、RさんのT字カミソリのように「〇〇でなければ嫌だ！」とこだわりを持つアイテムがたくさんあります。その要望に対応するためには、その都度個別に確認して準備をしなければなりません。チェックリストを作って、浴室に誘導する前に確認すれば忘れ物は無くなるのではないのでしょうか？

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
マーケット開発部 市場開発室
担当 堀江・窪田 TEL 03-5789-6456

担当課・支社 代理店